

学校110番非常通報装置 ～いち早い通報システムの確立を目指して～

NPO 法人 東京都セキュリティ促進協力会 理事
株式会社ライフネット 代表取締役 青木 一



私の総合防犯設備士としての歩みは、非常通報装置とともに成長してきたと言えるかもしれません。

もともと私は通信設備を販売・工事・保守する会社の2代目として事業を行ってきました。

通信機メーカーへの出向などを通じて、通信設備の技術的な仕組みを学び、電話がどうしてつながるのか、電話機の中はどうなっているのかを学ぶことができました。

この知識が後に学校110番通報装置の設置に大いに役立つものとなりました。

非常通報装置といつても、一般の施設が使用する非常通報装置と、110番・119番に通報する非常通報装置とでは機能に大きな違いがあります。

110番または119番に電話をかけると、警察・消防はかけてきた電話機へ折り返すことができるようになっています。

また当然のことながら110番・119番は電話料金がかかりません。ですから通報した際の電話回線の動作にも違いがあります。

それで一般に使用されているものと同じ非常通報装置では、110番・119番へ通報することができないわけです。

こうした理由から専用の通報装置が求められることになります。



110番通報の仕組み

私がこうした専用の通報装置の設置にたずさわったのは、119番火災通報装置の設置が最初でした。昭和62年東京都東村山市にある特別養護老人ホーム「松寿園」で火災があり、死者17名負傷者25名の犠牲者が亡くなった事故をご記憶の方もおられると思います。

その後社会福祉施設における防火安全対策として消防機関へ通報する非常通報装置の設置が勧められるようになりました。

この「松寿園」に火災通報装置を設置したことが、まさに最初の非常通報装置の設置となりました。当時は岩崎通信機株式会社のパトホンが火災通報装置として設置できる最初のころの機器だったことを覚えています。

その後ホテル・旅館等への火災通報装置の設置業務にも携わってきましたが、徐々にセキュリティ関連の仕事が多くなっていきました。

そしてあの平成13年6月8日の附属池田小学校の事件が発生しました。児童8人を殺害し、15人を負傷させるという残虐な事件が起きたのです。

この時、東京都は都内約6000施設の小学校・中学校・幼稚園・保育園に学校110番非常通報システムを導入することを決定しました。

私の会社が所属するNPO法人東京都セキュリティ促進協力会（東セ協）では、この事業に参加するために、副理事長で株式会社セキュリティハウスの社長照井康平氏と株式会社ライフネットの会長青木一郎氏が、初期の学校110番委員会を立ち上げ、この事業に参加すべく行動されました。

東京都教育庁と警視庁を何度も訪問し、この事業への許可を得るために奔走してくださったと聞いています。

こうした努力の結果、東京都セキュリティ促進協力会は、学校110番非常通報装置の申請、設置工事、保守を行うことが許可されることになりました。

とはいえる、都内6000施設のうち、どのくらいの施設を東セ協が工事することになるのか、また短い期間で通報装置そのものを開発し、工事できるのか、24時間365日の監視センターの運用など、多くの問題がありました。



東セ協監視センター



工事の様子

通報装置そのものの開発や製造においては、東セ協の会員NECインフロンティア株式会社（現NECプラットフォームズ株式会社）様が急ピッチで製品を完成させてくださいました。

当時私も工事を担当する責任者として、NECインフロンティア様の工場での機器の説明会に参加したことを覚えています。この時に以前の電話設備の知識や火災通報装置設置の経験が役立つことになりました。もっとも役立ったのは、当時設置対象となる施設、特に保育園等小さい施設ではISDN回線1本しか使用しておらず、施設に設置されている電話装置のままでは、通常の非常通報装置の設置方法で設置できない施設があるということがわかったときです。



急遽NECインフロンティアの技術の方々と会議を行い、特別な切り替え装置を提案いたしました。そしてその提案通りの機器を開発してくださいました。

その結果、すべての施設で安心して機器の設置工事ができるようになります。

また東セ協のメンバーの皆様の活躍によって、他の問題も解決することができ、無事1561施設への設置が完了することとなりました。

その後学校110番委員会が常設の委員会となりました。私もそのメンバーとして参加することとなり、平成24年から学校110番委員会・委員長として働いています。



切り替え装置

この学校110番非常通報装置は「いざ」というときに威力を発揮します。総合的な防犯を考える際には、様々な危険要素を考慮することが必要です。それぞれの危険にどのように対応するのか、最も効果的な方法は何かを常に考える必要があります。

時折、「この機器は無駄じゃないの、一度も使ったことないし」という声をいただくことがあります。がとても残念に思います。

社会にとって犯罪がないことが一番です。しかしいつ犯罪が起こるかはわかりません。

万が一発生したときの対応策、未然に防ぐ方法、いち早い通報システムの確立など常に備えを怠らないことはとても大切です。

総合防犯設備士として、これからも防犯に対する備えを訴えていきたいと思います。

学校110番非常通報装置の設置を始めてから数年後、平成18年に総合防犯設備士の資格を取得したわけですが、保育園・幼稚園・学校など子どもたちが集まる施設への防犯診断が多くなりました。総合的に防犯を考える上でこの総合防犯設備士の資格は役立っていると思います。

東セ協では20年が経過した現在、都内2500を超える施設を保守しています。

またライフネットとしては千葉県、神奈川県、埼玉県で500ほどの施設を保守しています。

この学校110番非常通報システムは万が一の時、子供たちの安心安全を確保するうえで欠かせないシステムだと確信しています。引き続き総合防犯設備士として、特に子供たちの安心安全のために、この分野で微力ながら尽くしていきたいと思っています。